

「AI＝自動化」で止まって いないか。

AI活用を売上に繋げるための設計図

Deflag 2026.06

本資料でわかること

AIを取り入れ、社内活用が進み始めている。業務も効率化されている。

しかし、肝心の売上の数字は変わっていない。

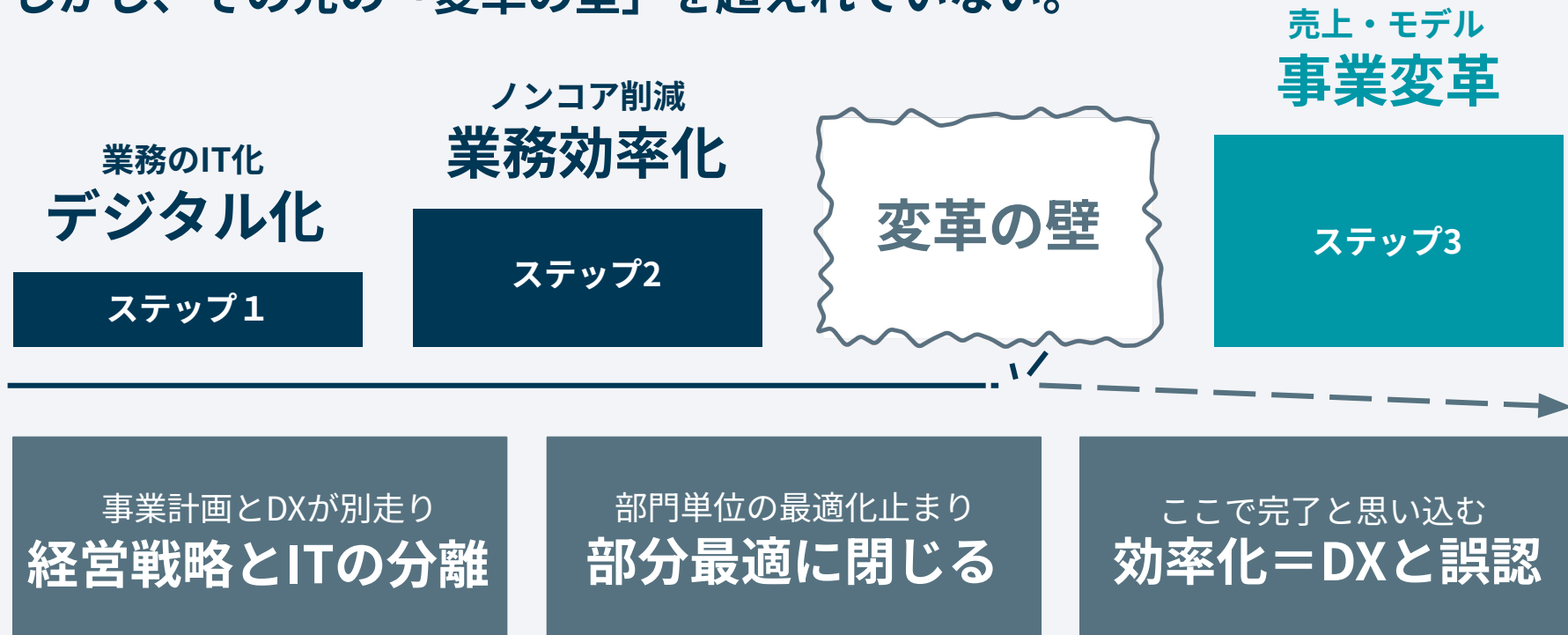
AIで効率化以上のことはできないのだろうか、と
感じ始めている方もいるのではないのでしょうか？

本資料では、なぜAI導入で効率化の先に進めないのかを失敗パターンで説明し、
AIでの自動化を起点に、売上最大化まで進み続ける全体像をお話します。

- 世界の主要調査が示す「AI導入が売上に届かない」実態
- AI導入がコスト削減で止まってしまう5つの失敗パターン
- 自動化を起点に、売上を最大化する全体像

AIを導入したものの、効率化の先に進めない企業に立ちはだかる「変革の壁」

AI活用を始めた企業では、業務の「効率化」までは到達している。
しかし、その先の「変革の壁」を超えていない。



AI導入したものの、効率化の先に進めない企業に立ちはだかる「変革の壁」

多くの企業が同じ壁に立ちはだかれており、「AIの普及」と「AIによる価値創出」のあいだには、決定的なギャップがある。

AIの普及

AI導入企業

88%

AIによる価値創出

EBIT 5%以上の影響

6%

本格的な価値創出を
実現している企業

5%

DXレベル4以上

3%

- McKinsey 「State of AI 2025」 （世界1,993社）：88%の企業がAIを導入。しかしEBITに影響ありは39%、5%以上の影響を出せているのはわずか6%
- BCG 「Build for the Future 2025」 （世界1,250社）：AIで本格的な価値創出を実現している企業は5%のみ。60%は最小限の効果しか得られていない
- IPA 「DX推進指標 自己診断結果 分析レポート（2025年版）」 （日本企業1,164社）：DX成熟度レベル4以上の企業は3%のみ

AI投資が売上に届かないのは技術の問題ではなく、構造の問題。 「止まる」のではなく、止まるように設計されている

目的が「効率化」だけに設定されている

McKinsey調査では80%の企業が効率化を目的に設定しており、コスト削減より先のゴールが設計されていない。
(<https://www.mckinsey.com/capabilities/quantumblack/our-insights/the-state-of-ai>)

業務全体が再設計されないまま、いきなり自動化を行っている

そもそもやらなくて良い業務が存在するにも関わらず、現在の業務をそのままAI化しようとしている。
BCGは、AIを成功させる取り組みの70%は人とプロセスの変革にあり、アルゴリズムは10%にすぎないとしている。
(<https://www.bcg.com/capabilities/artificial-intelligence>)

AIにより生まれた余白が、別のノンコア業務に吸収される

削減された時間の投資先が定まっていなままAI化を進めてしまう。
効率化がされても、別の事務作業へ時間を費やすだけで、売上に直結する業務の時間が増えない。

**AI投資が売上に届かないのは技術の問題ではなく、構造の問題。
「止まる」のではなく、止まるように設計されている**

「効率化」を起点に、再投資を行うためにAIを導入する

**業務をコア業務とノンコア業務に整理した後、
新たな業務プロセスに再構築する**

AIによって生まれた余白を活用して、量 / 質への再投資を行う

自動化はゴールではなく起点であり、削減で生まれた時間を、質と量へ再投資し続ける循環として設計する。



時間とデータをもとにした再投資で、量 / 質ともに売上最大化・受注率改善を実現

量（商談数）への再投資

受注確度の高い顧客の条件を特定し、アプローチリストを優先順位付けする

記録・準備の時間を圧縮し、同じ時間で、より多くの商談に臨む

フォロー漏れ・停滞案件を検知し、再アプローチする

商談数の最大化

質（受注率）への再投資

受注した商談と失注した商談を比較し、勝ちパターン（響いた顧客と訴求）を特定する

受注率の高い顧客像（業種・規模・課題）を特定する

過去の類似商談から、商談前にヒアリング項目と提案仮説を準備する

成果の出た商談を教材に、メンバー全体の商談の質を引き上げる

受注率の改善

会社概要

会社名	株式会社deflag
所在地	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目3-9
電話番号	03-6228-3315
設立	2019年5月7日
事業内容	戦略コンサルティング事業 Sales AIインテグレーション事業 PdM伴走支援事業

データとAIの力で余白を作る。成長に変換する。

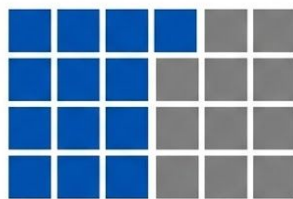
再び 旗を立てる

De + flag

デフラグメンテーション

Deflagは Defragmentation（断面化し整理する）と De(再び) flag(旗を立てる) の造語。

組織や業務が成長の過程で断片化し、何に時間を使うべきかが見えなくなった状態を整理し、再び進むべき方向に旗を立て直すことを意味しています。



資料請求

法人でのAI活用の課題を解決する
お役立ち資料を、配布しています。

Deflagのお役立ち資料一覧は[こちら](#)

お問い合わせ

AIに関するお悩み・ご相談がある際は
お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせは[こちら](#)